

●親子で学んだびわ湖の姿

NPO法人びわ湖トラスト

～megumiに乗ってびわ湖の水について学ぼう・秋の親子びわ湖環境学習会～

- ・実施日 2011年10月1日(土)
- ・参加 琵琶湖の水を飲んでおられる22グループ：大人34人・子ども35人(小学3～6年生)
- ・内容 びわ湖の水質検査、水中カメラによる湖底観察、水の実験(プランクトン調査)
- ・お楽しみ…竹生島上陸、参拝
- ・協賛助成 公益財団法人平和堂財団
- ・協賛 琵琶湖汽船株式会社
- ・協力 NPO法人浜大津観光協会
- ・参加費 無料



◆ 調査(1) 柳ヶ崎にて

風は幾分強めではあったものの、空も湖も美しい青色が広がる快適な琵琶湖観察会日和になった。太陽電池を使った琵琶湖汽船のエコ客船 megumi 号の明るい船室には親子連れのウキウキした声。

定刻通り浜大津港を出航。びわ湖トラスト会員でもある浅野昌也(近畿大学大学院客員教授)先生の軽妙な開会挨拶の後、目と鼻の先の柳ヶ崎で琵琶湖環境科学研究センターの水中カメラ等々、湖中観察のための機材搬入、ならびに環境情報統括員の熊谷道夫氏と河村氏(共にびわ湖トラスト会員)乗船。

栈橋にしばし停船してまずはこの辺りの水質を中島淳(立命館大学教授・当トラスト会員)先生の指導で観察。船ばたから白い円盤を水中に徐々におろし、円盤が見えなくなった深さを測る。つまりこの辺りの透明度を「数値」で「見る」。この日は円盤は4m10cmで見えなくなった。即ち、柳ヶ崎のこの日の透明度は4.1mということになる。次にバケツで湖水をくみ上げ、プランクトンを調べる。子どもはもちろんだが、大人も真剣な顔つきで小さな瓶を覗き込んでいる。いくつになっても〈知る〉ことは楽しい。

中島先生の調査と説明の後、熊谷先生の琵琶湖についての話があり、そのあと、熊谷先生と河村さんの水中カメラの操作による湖底の説明。スクリーンには小さな魚に混じってゴミが写る…。小さな声があがる。歓声であったり、嘆きであったり…。人は自分の五感で実感することで自分に「認識」させることができる。理屈で知っていることは「知識」にはなっているが、「認識」として刷り込まれた状態ではない…場合が多い。だから、水中のこともこうして実際に目にしたことで、子どもたちには刷り込まれたモノになったはずである。

◆ 湖上を走る…びわ湖を楽しむ

船を係留しての観察を終え、いよいよ琵琶湖へ。日曜日とあって湖上にはヨットがたくさん出ている、白い帆がまるで蝶が舞っているように見える。決してヒラヒラ…ではないのに「ヒラヒラと」と



表現したくなる軽やかさ。見回せば西に比叡比良の山並み。東に近江富士の三上山。びわ湖っていいなあ。

やがて琵琶湖大橋の下をくぐる。この辺りが琵琶湖の幅の一番狭いところだ。この橋を境に琵琶湖は南を「南湖」、北を「北湖（ほっこ）」という。北湖に入ると行く手はるかに伊吹山の勇姿も見えてくる。

竹生島への移動の間に琵琶湖汽船桂陽三取締役から「megumi」の説明と、「琵琶湖の深呼吸」の説明、実験。琵琶湖の湖底にいかにして酸素が供給されていくか、これまた目で見える形で示した実験で、これも子供たちによくわかったと思う。

桂氏の実験のあと、船内で昼食。その後竹生島に上陸。1時間余り自由参拝。お天気がいいので、伊吹山、そして霊仙山、御池岳…鈴鹿の山の稜線がクッキリ空を切っているのが見える。空の青を映して真っ青な湖面と陽光を跳ね返してキラキラ光る湖面。実に美しい。

◆調査（２） 近江舞子にて

午後の観測は北湖でするはずだったが、強風のため、急遽、近江舞子に変更。近江舞子の棧橋に係留して再び中島先生による水の透明度と水質調査。甲板上で試験紙をもらい、試験管に湖の水を入れて変化を見る参加者たち。ここでも、親も子も真剣な表情だ。

中島先生の講座のあと、水中カメラが映し出す湖中探査。普段には見られない光景だから、参加者たちは興味津々。近江舞子の辺り、水の透明度は4.2m。後、熊谷先生から「琵琶湖の七不思議」のお話。

調査を終え、一路、出発の浜大津港へ。船内では高木事務局長による「ナゾナゾ遊び」。子どもの発想は自由自在。高木氏が用意した答以外の意外な答えも出て、「科学は意外」から始まるものである…ことを実感。ともあれ、16：20、無事、浜大津港帰着。

早朝からの長時間の拘束で疲れた子どもさんもあったが、実施後のアンケートを見ると、「100%満足」のご回答。嬉しい結果である。この子たちが（大人も）、環境とは人間の関わりで、良くも悪くもなる…繊細なものだ…ということを実感して、自分たちの暮らしを考える人になってくれたら、と希いたい。

おつかれさまでございました。

(報告 西本椰枝 びわ湖トラスト会員)



近江舞子港の湖底映像

